

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	現金	402,000	貸付金 受取利息	400,000 2,000
2	備品減価償却累計額 現金 固定資産売却損	200,000 80,000 20,000	備品	300,000
3	備品	850,000	未払金 現金	800,000 50,000
4	買掛金	70,000	仕入	70,000
5	仮受金	100,000	前受金	100,000

・解説

1. 貸付金の回収に関する問題です。

元本（400,000円）の回収に関しては貸付金勘定を減額するとともに、同額だけ現金勘定を増額します。

換金性の高い（＝銀行に持っていけばすぐに現金に交換できる）他店発行の小切手は簿記上では現金として取り扱うので、これを受け取った場合は現金勘定を増額する、という点に気をつけてください。

なお、当店発行の小切手を受け取った場合は、振出時に減額した当座預金勘定を元に戻す（増額する）こととなります。こちらも頻出論点の1つですので、セットで押さえておいてください。

■小切手を受け取った場合の仕訳

他店発行の小切手…現金勘定を増額する

当店発行の小切手…当座預金勘定を増額する

一方、利息の受け取りについては、問題文の「半年分の」という部分を見落とさないように注意してください。問題文を読んだときに丸で囲むなり、ラインを引くなりして目立たせておく方が良いと思います。

$$\text{受取利息} = 400,000 \text{円} \times 1\% \times 6 \text{か月} \div 12 \text{か月} = 2,000 \text{円}$$

貸付金の回収に関する問題は、第104回の間5や第114回の間4、第122回の間2、第142回の間3でも出題されているので、あわせてご確認ください。

2. 固定資産の売却に関する問題です。

固定資産は期首に売却する場合と、期中（または期末）に売却する場合とで処理が異なるので、まず問題がどちらに該当するのか確認しましょう。

■期首に固定資産を売却する場合

当期の減価償却費はゼロなので、取得原価から期首備品減価償却累計額を差し引いて売却時の帳簿価額を計算し、さらに売却価額との差額で売却損益を計算します。

$$\text{売却時の帳簿価額} = \text{取得原価} - \text{期首備品減価償却累計額}$$

■ 期中（または期末）に固定資産を売却する場合

当期の減価償却の処理に関する指示が入るので、それに従って当期の減価償却費を（月割で）計算します。そのうえで、取得原価から期首備品減価償却累計額&当期の減価償却費を差し引いて売却時の帳簿価額を計算し、さらに売却価額との差額で売却損益を計算します。

$$\text{売却時の帳簿価額} = \text{取得原価} - \text{期首備品減価償却累計額} - \text{当期の減価償却費}$$

■ 本問はどちら？

本問は、問題文の「5年目の期首に ¥ 80,000 で売却」から期首に売却したことが分かるので、まずは期首備品減価償却累計額を計算しましょう。

$$300,000 \text{ 円} \div 6 \text{ 年} = 50,000 \text{ 円} / \text{年}$$

$$50,000 \text{ 円} / \text{年} \times 4 \text{ 年} = 200,000 \text{ 円}$$

期首備品減価償却累計額の金額を計算したら、取得原価からこれを差し引いて売却時の帳簿価額を計算します。

$$\text{取得原価 } 300,000 \text{ 円} - \text{期首備品減価償却累計額 } 200,000 \text{ 円} = \text{売却時の帳簿価額 } 100,000 \text{ 円}$$

最後に、売却時の帳簿価額と売却価額との差額で売却損益を計算します。売却価額 200,000 円は売却先振出しの小切手で受け取っているのので、現金で処理します。

- ・ 売却時の帳簿価額 = 100,000 円
- ・ 売却価額 = 80,000 円
- ・ 差額 = 20,000 円（帳簿価額 > 売却価額…売却損）

★ 解答仕訳

(借) 備品減価償却累計額	200,000	/	(貸) 備品	300,000
(借) 現金	80,000			
(借) 固定資産売却損	20,000			

固定資産の売却に関する問題は、第 102 回の問 2や第 105 回の問 2、第 108 回の問 1、第 115 回の問 4、第 119 回の問 5、第 120 回の問 3、第 122 回の問 5、第 134 回の問 1、第 135 回の問 3、第 136 回の問 2、第 137 回の問 3、第 138 回の問 2、第 142 回の問 1、第 146 回の問 2、第 149 回の問 5でも出題されているので、あわせてご確認ください。

3. 固定資産の購入に関する問題です。

建物や車両、備品、土地などの固定資産を購入したさいに、不可避免的に発生した費用（付随費用）は購入原価に含めて処理します。本問の「運搬費 ¥ 20,000 および据付費 ¥ 30,000」も、購入原価に含めて処理しましょう。

$$\text{購入代価} = 800,000 \text{ 円} \quad \text{付随費用（運搬費および据付費）} = 20,000 \text{ 円} + 30,000 \text{ 円} = 50,000 \text{ 円}$$

$$\text{購入原価} = \text{購入代価 } 800,000 \text{ 円} + \text{付随費用 } 50,000 \text{ 円} = 850,000 \text{ 円}$$

なお、商品売買取引以外で発生した未払債務 800,000 円は、**未払金**で処理します。うっかり買掛金で処理しないように気をつけてください。

■商品売買取引に伴い発生した未収債権・未払債務 → 売掛金・買掛金

■商品売買取引以外で発生した未収債権・未払債務 → 未収入金・未払金

固定資産の購入に関する問題は、第 100 回の問 5や第 101 回の問 4、第 106 回の問 1、第 109 回の問 3、第 113 回の問 3、第 116 回の問 2、第 118 回の問 2、第 123 回の問 3、第 128 回の問 5、第 129 回の問 2、第 139 回の問 2、第 143 回の問 4、第 145 回の問 4、第 148 回の問 4、第 150 回の問 1でも出題されているので、あわせてご確認ください。

4. 仕入戻しに関する問題です。

仕入戻しとは、仕入先に商品を返品することですから、**仕入時の逆仕訳**を切ります。

☆参考・仕入時の仕訳（既に切られている仕訳）

（借）仕入 50,000 / （貸）買掛金 50,000

★解答・逆仕訳を切るだけ

（借）買掛金 50,000 / （貸）仕入 50,000

なお、問題文の許容勘定群に「仕入」勘定ではなく「仕入戻し」勘定しかない場合は、仕入勘定の評価勘定である仕入戻し勘定を使って処理します。なお、仕入戻し勘定はその後、決算整理のときに仕入勘定に振り替えます。

☆参考・仕入戻し勘定を使う場合の仕訳

（借）買掛金 50,000 / （貸）仕入戻し 50,000

☆参考・決算整理時

（借）仕入戻し 50,000 / （貸）仕入 50,000

仕入戻しに関する問題は、第 113 回の問 4でも出題されているので、あわせてご確認ください。

5. 仮受金・前受金に関する問題です。

仮受金は、入金の実績があるものの相手勘定や入金された理由などが不明な場合に、一時的に計上する勘定科目です。

本問は、問題文に「出張中の社員から当座預金口座に振込みがあった ¥ 100,000 はその詳細が不明であった」とあるので、以前に以下のような仕訳を切っていたことが分かります。

☆参考・既に切られている仕訳

（借）当座預金 100,000 / （貸）仮受金 100,000

そして今回の調査の結果、「得意先小笠原商店からの商品代金の前金であることが判明した」とあるので、仮受金勘定を前受金勘定に振り替えます。

★解答・仮受金勘定を前受金勘定に振り替える仕訳

(借) 仮受金 100,000 / (貸) 前受金 100,000

■仮受金と前受金の違いについて

- ・仮受金…**内容が不明**のお金を受け取った場合に仮に計上する勘定
- ・前受金…**商品売買に先立って**お金を受け取った場合に計上する勘定

仮受金と前受金についてはきちんと区別できるようにしておいてください。なお、商品売買に先立って受け取るお金には「内金」と「手付金」の2種類がありますが、受験簿記では両者を区別して押さえる必要はありません。どちらも受け取ったら前受金勘定で処理します。

仮受金と前受金に関する問題は、第101回の間1や第109回の間5、第112回の間3、第116回の間3、第125回の間3、第127回の間4、第137回の間5でも出題されているので、あわせてご確認ください。